~~資料提供~~
広報取材依頼

情報提供日	令和５年９月２７日
問い合わせ先	大田市教育部石見銀山課 （担当伊藤美保）
	TEL0854－83－8130（直通）

「「石見銀山捲き上げ節パンフレット」贈呈式」について

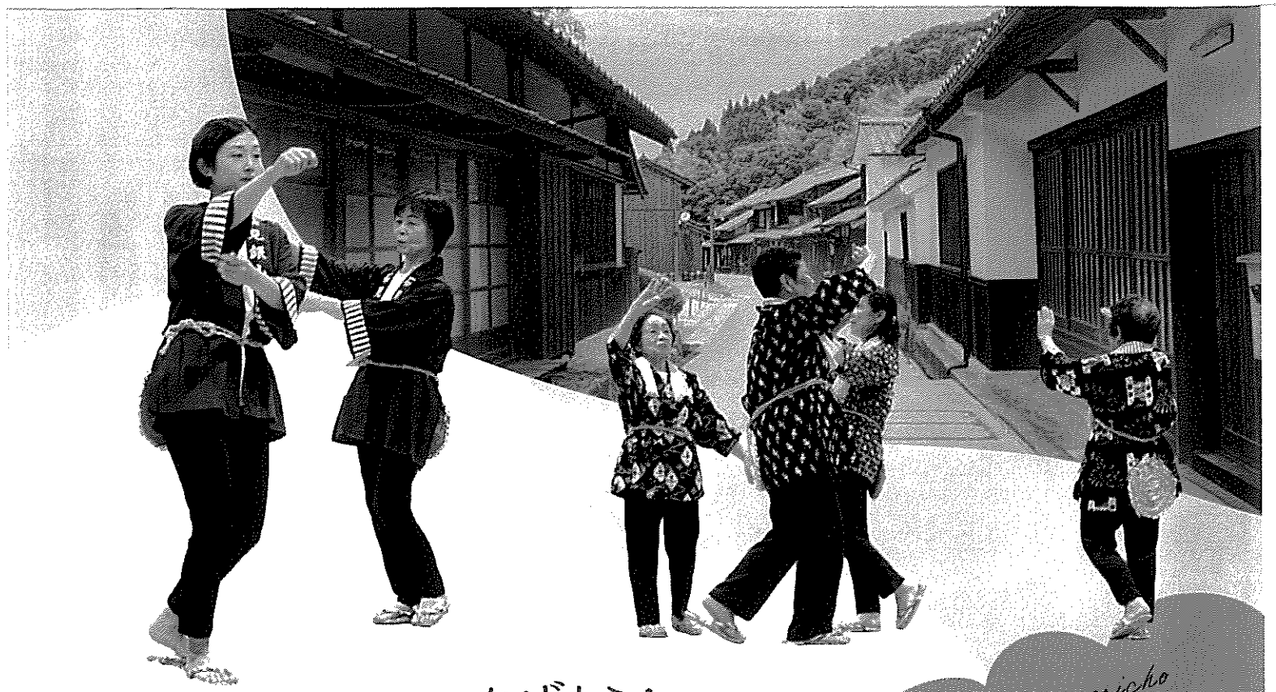
１．行　事　名	「石見銀山捲き上げ節」パンフレット贈呈式
２．目　　的	「石見銀山捲き上げ節」の記録・保存に向け、島根県フォークダンス連盟会員　梶谷朱美氏　他により作成されたパンフレットを市へ寄贈されるため贈呈式を行うもの。
３．開催（実施）期間	令和５年１０月１０日（火）
４．開催（実施）時間	１３：３０～１４：００
５．開催（実施）場所	大田市教育委員会　教育長室
６．主　　催	島根県フォークダンス連盟　梶谷朱美氏
７．後　　援	
８．参加・入場者数	１０名程度

９．行事の内容

（全体の概要、特徴的なものなど）

石見銀山で銀の採掘時に、鉱石と水をくみ上げる仕事を担っていた女性たちが歌っていた「石見銀山捲き上げ節」の記録・保存に向け、島根県フォークダンス連盟会員の島根県立短期大学部長の梶谷朱美教授　他により作成されたパンフレットを市へ寄贈されるため贈呈式を執り行うもの。（パンフレットは広報おおだ１１月号（10／19付け発行）と同時に全戸配布予定）

10．特記事項	―
11．その他	添付資料あり（添付のパンフレットは最終稿ではありません）



未来へつなげよう！

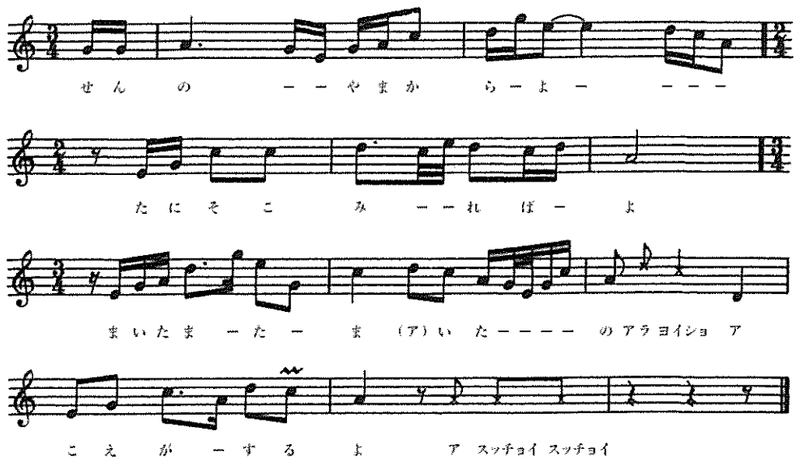
odashi omoricho
島根県大田市大森町

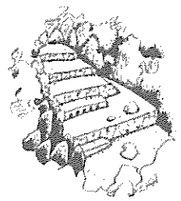
石見銀山 捲上げ節

iwami ginzan makiagebushi

石見銀山捲上げ節

伝承地
島根県大田市大森町





一、仙の山からヨー　谷底見ればヨー
捲いたマーターア　捲いたーのー
アラヨイショ　アー　声がするヨー
アー　スッチョイ　スッチョイ

二、三十五番のヨー　座元の水はヨー
大岡マーターア　様でもーアラヨイショ
アー　裁きゃせぬヨー
アー　スッチョイ　スッチョイ

三、大岡様でもヨー　裁けぬ水をヨー
水車　マーターア　ポンプでー
アラヨイショ　アー　皆さばくヨー
アー　スッチョイ　スッチョイ

四、捲けば本番ヨー　捲かなきゃ歩役ヨー
捲けば　マーターア　女のー　アラヨイショ
アー　身がたたぬヨー
アー　スッチョイ　スッチョイ

五、捲いた捲いた捲いたヨー
捲けぞが捲いたヨー　捲けぞ　マーターア
捲かなきゃー　アラヨイショ
アー　箱たたけヨー
アー　スッチョイ　スッチョイ

参考文献
・島根県教育委員会 発行（昭和六十一年三月）
『島根県の民謡 民謡緊急調査報告書』百二十二ページ
・公益社団法人 日本フォークダンス連盟編集『ふる里の民踊Ⅳ』

監修・発行者 ‖ 梶谷 朱美（島根県立大学短期大学部）　島根県フォークダンス連盟（会長：出構 弘美）

動画撮影・編集者 ‖ 奥野 愛子　多久和 淑子

音楽・唄 ‖ 石見銀山大盛の唄　三夜節・銀掘り歌・捲き上げ節
唄：河村 桜歳（福久）大田市大森町　制作：音楽工房おーく

石見銀山捲上げ節 動画収録出演者（順不同・敬称略） ‖ 恒松 幸子・川北 順子・川上 恵子・今出 眞賀子・此下 千鶴子・中川 英子
向野 美保子・金森 幸子・牧野 千津子・中村 朋子・森山 和子・吉田 美穂子
吉田 彩乃・有馬 美代子・寺脇 茂子（15名）
（収録会場：大田市大森町 町並み交流センター　収録日：令和5年7月31日（月））

ご協力いただいた関係機関 ‖ 大田市教育委員会 ／ 石見銀山資料館 ／ 大田市大森町 町並み交流センター
島根県市町村総合事務組合　島根観光連盟
島根県立大学・島根県立大学短期大学部サテライトキャンパス　石見銀山まちを楽しくするライブラリー

石見銀山捲上げ節の記録・保存に向けて

戦国時代から銀が採掘されていた「石見銀山」は、昭和18年（1943）の大洪水により閉山し、400年の幕を閉じます。

その後、石見銀山は昭和44年（1969）4月に国の史跡指定を受けます。その際に由緒ある坑内唄を史跡とともに後世に残すために踊りの振付が新たに考案されました。それが、「石見銀山捲上げ節」の原形です。

この踊りは、公益社団法人日本フォークダンス連盟「ふる里の民踊」に島根県で初めて認定された価値ある踊りです。しかし、近年は、音源や動画が確認されず、これまで伝承された踊りが途絶える危機に直面していました。

そこで、世界遺産である石見銀山に伝承されている労作唄と踊りを記録保存し、後世に伝えたいと考え「石見銀山捲上げ節」の復活に着手しました。

令和5年（2023）7月、地元大森町の有志の皆さん、30歳代の若い世代から最高齢97歳まで15名の皆さんにご協力いただき伝承されてきた踊りを収録しました。そして、このパンフレットやDVD等を製作しました。

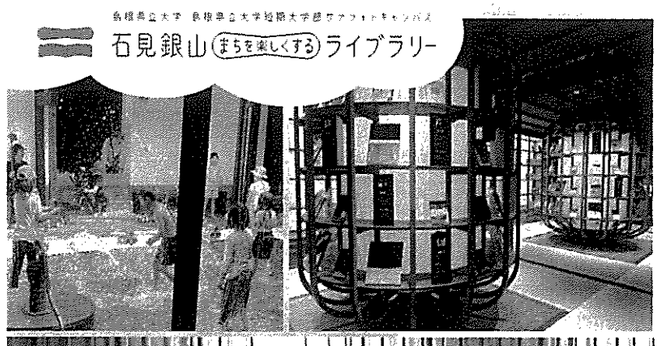
この活動をきっかけとして、地元大田市の皆さまをはじめ、未来を担う子どもたちにも踊っていただき、石見銀山の歴史と文化を感じながら、ふるさと大田市に誇りと愛着をもっていただけたら幸いです。

島根県立大学短期大学部長　梶谷 朱美
（保育学科教授・ダンス教育学）

未来へつなげよう！

石見銀山 捲上げ節

iwami ginzan makiagebushi



一緒に楽しく踊りましょう♪

歴史と背景

16世紀、石見銀山は、世界から熱い視線が注がれ、世界を動かしました！

高品質で大量に採掘できる銀は、日本のみならずアジアやヨーロッパ諸国の交易を支え、東洋と西洋の経済や文化の交流を促すきっかけとなりました。

そして、今も!!

平成19年（2007）7月にユネスコ世界遺産に登録された石見銀山は、龍源寺間歩等の銀鉱山跡や大森町の街並み等が整備され多くの観光客が訪れています。また、この町に魅かれた若い世代の移住が進み、大森町は活気を取り戻すとともに子育てのしやすい町として全国から注目を集めています。

また、令和5年（2023）には、小説家、千早茜さんが石見銀山を舞台にした歴史小説「しろがねの葉」で第168回直木賞を受賞し、地元はさらに盛り上がっています。

QR

動画で見る！

唄と踊りの由来

石見銀山では、作業の効率をあげるために坑内唄、いわゆる労作唄、仕事唄を歌いました。今でも残っている坑内唄は、銀堀唄と捲上げ節の二つだけです。一番よく知られている唄は、明治20年（1887）以降、藤田組により操業された「佐藤鉉一」と呼ばれる鉱脈のうち35番坑から生まれた捲上げ節です。

捲上げは、鉱石の入ったタゴを立坑（たてこう）の底から巻き上げる作業のことです。若い娘たち4人が、地下300メートルの立坑の座元（地底）から鉱石の入った重いタゴをロープで巻き上げました。絣の筒袖の着物に、赤い腰巻、首には豆絞りの白い手拭い、足には脚絆と藁の足半（あしなか）といういでたちでした。手を休めることのできない重労働で、捲上げ節を歌いながら力を合わせて懸命に作業を行う娘たちのことがしのばれます。

「スッチョイ、スッチョイ」というハヤシ言葉は滑車ロープのきしむ音を表しています。

石見銀山に生きた女性の歴史を物語る貴重な唄と踊りです。

QR

動画で見る！

参考文献　公益社団法人日本フォークダンス連盟編集「ふる里の民踊Ⅳ」